

# 幼 児 の 教 育

昭 和 七 年 五 月

こゝろもち

子どもは心もちに生きてゐる。その心もちを汲んで呉れる人、その心もちに觸れて呉れる人だけが、子どもにとつて、うれしい人、有り難い人である。

子どもの心もちは、極めてかすかに、極めて短い。濃い心もち、久しい心もちは、誰れでも見落さない。かすかにして短き心もちを見落さない人だけが、子どもと俱に、ゐる人である。

心もちは心もちである。その原因、理由とは別のことである。況してや、その結果とは切り離されることである。多くの人が、原因や理由をたづねて、今の心もちを共感して呉れない。結果がどうなるかを問ふて、今の、此の、心もちを諒察して呉れない。殊に先生といふ人がさうだ。

なかには、子どもの心もちが分つてゐながら、それを壓しついたり、踏みにつつたりして平氣の人がゐる。殊に、教育の名に於て、屢々それが行はれる。それで、教育は子どもを愛し、子どもを尊重してゐるのだといふ。

しかし、子どもの心もちを無視して、何を愛してゐるといふのだ。心もちを尊重されないので、何でその子が尊重されてゐるのだ。

その子の今の心もちにのみ、今のその子がある。